

2021年度 事業報告書

(単位：百万円)

	事業名称	事業実績等	予算	実績	差異
1 評価への対応	1) 第3期認証評価の受審	1) 「自己点検・評価及び内部質保証推進委員会」が中心となり、「認証評価委員会」が実作業を担い、全学的な協力体制の下、実地調査に適切に対応しました。	5.5	5.7	-0.2
	2) 内部質保証の実質化	2) 「自己点検・評価及び内部質保証推進委員会」の下に、新たに「教学課程委員会」を設置しました。	—	—	—
2 強化教育力の	1) 教学マネジメント体制の整備と学生の学修実態と成果の把握	1) 「遠隔授業等に関するアンケート」及び「外国語教育に関するアンケート調査」を実施しました。	—	—	—
	2) 能動的学修の拡大、自律学修支援の推進	2) LMS（学習管理システム）等を利用したことにより、遠隔授業等で利用できる教材が蓄積され、今後の自律学修の基礎を形成しました。	19.4	22.8	-3.4
3 の学生支援	1) 学生サポート体制の整備	1) 「ハラスメントの防止に関する行動規範」を制定すると共に、学生サポート体制の整備として、障がいのある学生等を組織横断的に支援する「学生支援連絡会」を設置し、支援を希望する学生を把握する調査を実施しました。また、「障がいのある学生支援ハンドブック」を作成しました。	—	—	—
4 の入試強化制度	1) 学生数の確保と厳格な定員管理	1) 繰り上げ合格制度の効果的活用にも努めました。	—	—	—
	2) 志願者数の確保	2) 新たに「外検+（プラス）」型入試方式を導入しました。コロナ感染防止等、受験生への配慮のため、入試開始時刻を繰り下げました。	87.7	76.0	11.7
5 推進国際化	1) 「国際化推進のためのアクションプラン」の立案と実行	1) 「国際化推進のためのアクションプラン2021」が提出され、その年次計画に沿い、オンライン留学を含む各種プラン実施に向け検討しました。	3.4	0.5	2.9
6 組織人事	1) 同一労働同一賃金の影響検証	1) 検証結果を踏まえ、就業規則等の一部改正を行いました。	—	—	—
	2) IR実施体制の整備を含む組織再編	2) 次年度以降の継続事項とします。	—	—	—
	3) 給与・人事関係制度の検討	3) 次年度以降の継続事項とします。	—	—	—
7 施設の適正維持管理と有効活用	1) 既存施設設備のメンテナンス（予防保全型管理への転換）	1) 天野貞祐記念館 GHP の更新は、世界的なサプライチェーンの混乱により一部の実施が先延ばしとなりました。なお、引き続き中長期的に予防保全型管理により効率的・効果的に進めます。	231.7	145.1	86.6
	2) 大学取得用地の施設建設計画の策定	2) 獨協大学セミナーハウス（仮称）の設計が完了し、年度末に起工式を実施し、建設に着手しました。	30.0	39.0	-9.0
	3) 所有不動産の整理（新甲子セミナーハウス）	3) 新甲子セミナーハウス解体と土地売却、併せて八丈島の所有地売却に関する具体的検討をしました。	20.0	—	20.0
	4) 法科大学院修了生学修支援講座終了後の4棟跡地の利用検討	4) 一部教室等の継続利用の他、アーカイブ資料の保管施設、会議室等に利用することになりました。	—	—	—
8 財務	1) 新たな寄付金募集事業の策定と実施	1) 事業継続のための検討部会を設置しましたが具体的な事業計画の立案までには至りませんでした。	2.5	0.3	2.2
	2) 収支構造の転換	2) 支出経費に関する検証を行う会社と契約を結び、支出の適切性を客観的に確認する作業を開始しました。	—	—	—
9 新型コロナウイルス感染症防止対策	1) 遠隔授業支援	1) 遠隔授業を支えるシステム等の環境強化をしました（Manaba、Zoom、Webex等の運用、各種システム環境の強化等）。	45.6	26.7	18.9
	2) 感染リスク回避策	2) 遠隔授業拡大期間の延長、学生証読取システム利用による入構する学生の把握、獨協医科大学埼玉医療センターの協力により、ワクチン接種を2回実施するなど感染回避に努めました。	25.6	3.9	21.7

■ 2022年度 主要事業計画書

(単位：百万円)

	事業名	事業内容	2022年度予算
1 評価への対応	1) 第3期認証評価の受審結果への対応	1) 大学基準協会による第3期認証評価の受審後の「改善課題」及び指摘事項への対応	—
	2) 内部質保証サイクルの確立	2) 「獨協大学内部質保証方針」に則った内部質保証の実質化への取り組み	—
		合 計	0.0
2 教育力の強化	1) 現行カリキュラムの改正準備	1) 2024年度施行予定の新カリキュラムに向けた現行カリキュラムの抜本的見直し	—
	2) オンライン教育の活用	2) 対面授業にオンライン教育を組み合わせることによる教育効果の向上	18.1
	3) 自律学修支援の推進	3) ソフト・ハード両面におけるアクティブ・ラーニング型授業の推進による教育力の強化	22.8
	4) 学生の学修実態と成果の把握	4) 教学マネジメントの確立に不可欠な「学修成果・教育成果の把握、可視化」への取り組み	—
		合 計	40.9
3 学生の強化支援	1) 学生サポート体制の整備	1) 「支援を必要とする学生へのサポート体制整備検討部会答申」に基づいた学生支援連絡会による施策の検討と具現化	1.4
			合 計
4 入試制度の強化	1) 学生数の確保と厳格な定員管理	1) 目標入学者数の確保のため、線上合格制度の効果的活用	—
	2) 志願者数の確保	2) 魅力ある大学案内、オープンキャンパスの充実、学外説明会・高校訪問への積極的参加、Webの充実他による総合的入試戦略の強化（目標 20,000人）	58.9
	3) 広報力の強化	3) 広報の費用対効果を高めるための入試広報と大学広報の効果的統合	91.7
		合 計	150.6
5 推進国際化	1) 「獨協大学の国際化推進のためのアクションプラン2021」の推進	1) 大学の国際化の推進に関する2022年度計画の遂行	10.7
			合 計
6 組織人事	1) 組織再編	1) 組織再編の検討と実施（IR実施体制の整備を含む）	—
	2) 諸手当、選択定年退職者の特別加算「率」の見直しと再雇用制度の新設検討	2) 諸手当、選択定年退職者の特別加算率の見直し、高齢者雇用安定法施行等社会の変化に合せた再雇用制度の新設検討	—
		合 計	0.0
7 と施設の有効活用管理	1) 既存施設設備のメンテナンス	1) 計画的メンテナンスの実施による施設の適切な維持管理主にGHP(A棟)を中心にその他経年による更新を実施)	308.5
	2) 大学取得用地施設の建設と運用準備	2) 獨協大学セミナーハウス（仮称）の建設と運用計画の策定	600.0
	3) 遊休用地・施設の整理	3) 新甲子セミナーハウス解体及び同用地売却 八丈島の用地売却	120.0 40.0
		合 計	1,068.5
8 財務	1) 新規寄付金募集開始	1) 新たな寄付金募集事業の実施	3.0
	2) 経常費補助金の獲得拡大	2) 主に「教育の質に係る客観的指標」における着実なポイント加算	—
	3) 学納金改定に向けた準備	3) 学納金改定に向けての調査及び制度設計	—
		合 計	3.0
9 その他	1) SDGsへの取り組み	1) 埼玉県SDGsパートナー登録後の啓発を含む各種取り組み	1.5
	2) 大学全額出資会社獨協アカデミックサポートサービズ株式会社（DASS）の積極的活用	2) 現行業務の見直しと、DASSへの新たな委託業務の選定	179.1
		合 計	180.6